

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 社会福祉法人せんねん村中野郷保育園

1. 事業名称

外国人 5 歳児と家庭のための日本語プログラム

2. 事業の目的

地域に住む外国人幼児およびその保護者に対し、就学前の段階で学習につながる日本語習得の機会を提供する。また、日本語指導者や日本語教室の少ない地域においても、外国人保護者がその母語をつかいながら、子どもと一緒に日本語学習ができるように学習教材(ワークブック)を作成する。

3. 事業内容の概要

運営委員会開催(1回)

日本語教室の設置、運営(8月、1～3月)

日本語教育をおこなう人材の養成・研修の実施(9月、1～3月)

日本語教育のための学習教材の作成(8月～3月)

4. 運営委員会の開催について

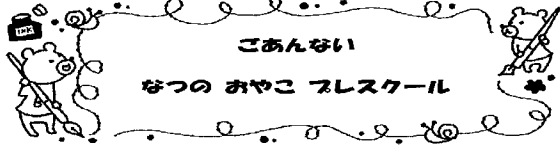
【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年8月24日 午後5時～午後9時	4時間	明日なる金山	村田知美 越智さや香 築樋博子 川上貴美恵	プレスクールセミナー事前打ち合わせと、学習教材の内容	事前にメールでやりとりしていたセミナー内容の確認。 セミナー当日の役割分担と、流れ、搬入物品、資料印刷部数などを確認 ワークショップで扱う教材の最終検討(対象児(家庭)の年齢や日本語レベル)
2			インターネットメール	築樋博子 村田知美 越智さや香 川上貴美恵	学習教材と親子プレスクールの指導内容	学習教材の内容: 日本語教室が近くにない、あるいは保護者が多忙であるため、頻繁に日本語教室に通室できない外国人5歳児が、家庭学習を中心として日本語に親しめるような内容を盛り込むべきではないか。 多様な支援者、指導者: 家庭では保護者が母語を使って子どもの日本語学習を支援でき、日本語教室では日本人指導者が支援できるような、多様な支援者を想定したほうがよいのではないか。 5歳児(幼児)の発達を考慮: 5歳児の認知発達レベルを考慮すると、指導員が教えるというより、「何度も見て、発見して、遊ぶ」というステップを踏み、繰り返しながら、段階的にレベルが上がっていくという手法をとったほうがよいのではないか。

5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 講座名称
親子プレスクール
- (2) 目的・目標
外国人 5 歳児とその保護者が一緒に日本語をまなぶ機会をもうける
文字(ひらがな)に親しみ、名前が書けるようになる
5 歳児に必要な家庭学習の姿勢をつけ、就学にむけて情報提供する
- (3) 対象者
外国人 5 歳児と保護者
- (4) 開催時間数(回数) 50 時間 (全31回)
- (5) 使用した教材・リソース
自作教材
絵本(福音館書店傑作集、フレーベル館キンダーブック「しぜん」シリーズ)
- (6) 受講者の総数 100 人
(出身・国籍別内訳)
ブラジル 4 4 人、フィリピン 2 2 人、ペルー 5 人、ベトナム 1 3 人、
インドネシア 2 人、外国にルーツをもつ日本国籍 5 人、
パキスタン 1 人、韓国 1 人、中国 7 人
- (7) 受講者の募集方法
保育園・幼稚園や市役所を通じてのおたより配布、インターネットメール

夏の親子プレスクール リライト版



ごあんない
なつのおやこプレスクール

にしおしでは、5さいの がいいくにルーツをもつ こどもの ための、プレスクール を して
います。なつ プレスクールは、しょうがつこうを みて あるいて、すこし ペんぎょうをし
ます。どうぞ、さんかして ください。

≪ なつのおやこ プレスクール ≫

とき: 8がつ6にち(げつようび)、8にち(すいようび)、10(きんようび)
AM10:00-12:00

ばしよ: つるしろ しょうがつこう

さんかする ひと: にしおしに すんでいる 5さいじ(ねんちよう)と ほごしゃ

もちもの: なつ うわばき(シューズかスリッパ)、ほごしゃの スリッパ、
すいとう(みず・おちゃ)、タオル

やること: しょうがつこうの なかを みて、いっしょに あるきます。なまえの れんしゅう
もします。おうだんぼどうを わたる れんしゅうも します。

れんらく: かわかみ(中野郷保育園)

なつのおやこプレスクール もうしこみしよ

●おこさんの ほいくえん・ようちえんの なまえ _____

●おこさんの なまえ _____

●れんらくさき(でんわばんごう) _____

しめきり: 7がつ25にち(すいようび) ほいくえん・ようちえんに だしてください。

平成24年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成 24 年 8 月 6 日 10:00～12:00	2 時間	西尾市立鶴城小学校	11人	ブラジル(9人)、ペルー(2人)	あいさつ ひらがな 親子で学ぶ 態勢をつくる	朝の挨拶、授業が始まるときの挨拶をして見せ、繰り返して言う。 ひらがなで生徒の名前を用意しておき、見ながら 50 音表から探す。 生徒は自分の名前を手本を真似して書く。 休憩中に、正しく学校のトイレをつかう(和式)。 時間通りに席につく。
2	平成 24 年 8 月 8 日 10:00～12:00	2 時間	西尾市立鶴城小学校	8人	ブラジル(6人)、ベトナム(2人)	あいさつ、 ひらがな、 交通安全	朝の挨拶、授業が始まるときの挨拶をしてみせ、繰り返して言う。 ひらがなで生徒の名前を用意しておき、みながら 50 音表から探す。 生徒は自分の名前を手本をみながら書く。 休憩中に正しく学校のトイレをつかう(和式)。 施設まわりを安全に歩き、横断歩道を渡る。
3	平成 24 年 8 月 10 日 10:00～12:00	2 時間	西尾市立鶴城小学校	8人	ブラジル(5人)、フィリピン(3人)	あいさつ、 ひらがな、 施設見学	朝の挨拶、授業が始まるときの挨拶をしてみせ、繰り返して言う。 ひらがなで生徒の名前を用意しておき、みながら 50 音表から探す。 生徒は自分の名前を手本をみながら書く。 休憩中に正しく学校のトイレをつかう(和式)。 施設内を見学(名称と役割をイラストで紹介)
4	平成 24 年 8 月 18 日 10:00～12:00	2 時間	西尾市役所	47人	ブラジル(24人)、フィリピン(15人)、ベトナム人(8人)、日本国籍(5人)、ペルー(3人)、パキスタン(1人)、韓	多文化多言語な保護者への就学案内	就学にさいして必要な物品、経費などを紹介。 (実際のものを見て、さわって、使い方などを確かめる。) 給食や掃除など、日本の学校文化を紹介。 保護者との質疑応答。
5	平成 24 年 8 月 18 日 13:00～15:00	2 時間	西尾市立一色西部保育園	17人	日本国籍(5人)、ペルー(3人)、パキスタン(1人)、韓	多文化多言語な保護者への就学案内	就学にさいして必要な物品、経費などを紹介。 (実際のものを見て、さわって、使い方などを確かめる。) 給食や掃除など、日本の学校文化を紹介。

					国(1人)、 中国(7人)		保護者との質疑応答。
6	平成25年1 月5日 14:30~1 6:00	1 、5 時 間	西尾市 青年の家	10 人	ブラジル 人(8人)、 インドネシ ア人(2人)	ひらが な、数量の 表現、絵 本、交通安 全	授業開始、終了のあいさつを知る 文房具の名前を知る ひらがなカード作り(あ行)をとおして、はさみ やのりなどの学用品にしたしむ
7	平成25年1 月9日 13:00~1 4:30	1 、5 時 間	西尾市 立平坂幼 稚園	5 人	ブラジル 人(2人)、 ベトナム人 (1人)	ひらが な、数量の 表現、絵 本、交通安 全	授業開始、終了のあいさつを知る 文房具の名前を知る ひらがなカード作りをとおして、はさみやのり などの学用品にしたしむ
8	平成25年1 月10日 13:00~1 4:30	1 、5 時 間	福)せん ねん村中 野郷保育 園	5 人	ブラジル 人(5名)	ひらが な、数量の 表現、絵本	授業開始、終了のあいさつを知る 文房具の名前を知る ひらがなカード作りをとおして、はさみやのり などの学用品にしたしむ
9	平成25年1 月12日 14:30~1 6:00	1 、5 時 間	西尾市 青年の家	12 人	ブラジル 人(9人)、 フィリピン 人(3人)	ひらが な、語彙	ひらがな(か行)にしたしみ、カード作りを する 50音表から、自分の名前をみつける 家族や身近な人の名前をしる 身近な物の名前をしる
10	平成25年1 月16日 13:00~1 4:30	1 、5 時 間	西尾市 立平坂幼 稚園	5 人	ブラジル 人(4人)、 ベトナム人 (1人)	ひらが な、数量の 表現、絵 本、交通安 全	時計で開始時間、終了時間を知らせる 50音表から自分の名前をみつけて、○をつ ける 家族や身近な人の名前をしる 連絡帳の使い方をしる 安全にきをつけて横断歩道を渡る
11	平成25年1 月17日 13:00~1 4:30	1 、5 時 間	福)せん ねん村中 野郷保育 園	5 人	ブラジル 人(5名)	ひらが な、数量表 現、絵本	時計で開始時間、終了時間を知らせる 50音表から自分の名前をみつけて、○をつ ける 家族や身近な人の名前をしる 連絡帳の使い方をしる
12	平成25年1 月19日 14:30~1 6:00	1 、5 時 間	西尾市 青年の家	14 人	ブラジル 人(11 人)、ベト ナム人(3 人)	ひらが な、数量表 現、オノマト ペ	ひらがな(さ行)にしたしみ、カード作りをす る レアリア、マグネットなどを使い、10までの数 量にしたしむ 絵本の読み聞かせをたのしみながら、オノマ

							トペに親しむ
1 3	平成 25 年 1 月 30 日 13:00～1 4:30	1 , 5 時 間	西尾市 立平坂幼 稚園	5 人	ブラジル 人(4 人)、 ベトナム人 (1 人)	ひらが な、数量の 表現、絵 本、交通安 全	時計で開始時間、終了時間を知らせる 50 音表から友だちや身近な人の名前をみつ けて、○をつける 絵本よみきかせで、新しい語彙や表現を知る 安全にきをつけて横断歩道を渡る
1 4	平成 25 年 1 月 31 日 13:00～1 4:30	1 , 5 時 間	福)せん ねん村中 野郷保育 園	5 人	ブラジル 人(5 名)	ひらが な、数量表 現	連絡帳を保護者からうけとって、指導者に みせる ひらがな(さ行)に親しむ ”しゅくだい”に取り組み、数量に親しむ
1 5	平成 25 年 2 月 2 日 14:30～1 6:00	1 , 5 時 間	西尾市 青年の家	10 人	ブラジル 人(7 人)、 ベトナム人 (3 人)	ひらが な、日時、天 候に関する 語彙	ひらがな(た行)にしたしみ、カード作りをす る 日時、天気などの表現をしる 紙飛行機を親子でつくり、飛ばす
1 6	平成 25 年 2 月 6 日 13:00～1 4:30	1 , 5 時 間	西尾市 立平坂幼 稚園	5 人	ブラジル 人(4 人)、 ベトナム人 (1 人)	ひらが な、絵本、交 通安全	時計で開始時間、終了時間を知る。 50 音表から自分の名前をみつけて、○をつ ける。 ひらがなで自分の名前を書く ”しゅくだい”を提出し、本日分をもらう
1 7	平成 25 年 2 月 7 日 13:00～1 4:30	1 , 5 時 間	福)せん ねん村中 野郷保育 園	5 人	ブラジル 人(5 名)	ひらが な、絵本	時計で開始時間、終了時間を知る。 50 音表から自分の名前をみつけて、○をつ ける。 ひらがなで自分の名前を書く 絵本よみきかせ ”しゅくだい”を提出し、本日分をもらう
1 8	平成 25 年 2 月 9 日 14:3 0～16:00	1 , 5 時 間	西尾市 青年の家	13 人	ブラジル 人(7 人)、 ペルー人 (1 人)、フ ィリピン人 (2 人)、ベ トナム人(3 人)	ひらが な、音楽に あわせて日 本語のリズ ムを感じる	ひらがな(な行)にしたしみ、カード作りをす る日時、天気などの表現をしり、言う音楽に あわせて、親子で体をうごかしながら日本語 表現にしたしむ
1 9	平成 25 年 2 月 16 日 14:30～1 6:00	1 , 5 時 間	西尾市 青年の家	12 人	ブラジル 人(5 人)、 ペルー人 (1 人)、フ ィリピン人 (3 人)、ベ	ひらが な、色	ひらがな(は行)に親しみ、カード作りをす る 日時、天気などの表現をしり、言う ”色”に関する語彙・表現を導入 親子でセロファンを使って色がまざる体験を し、状態が変化する表現を知る

					トナム人(3人)		
20	平成25年2月20日 13:00~14:30	1,5時間	西尾市立平坂幼稚園	5人	ブラジル人(4人)、ベトナム人(1人)	ひらがな、絵本、交通安全	時計で開始時間、終了時間を知る。 50音表から身近な人や友だちの名前をみつけて、○をつける。 ひらがなで自分の名前を書く ”しゅくだい”を提出し、本日分をもらう 安全に気をつけて、横断歩道をわたる
21	平成25年2月23日 14:30~16:00	1,5時間	西尾市青年の家	5人	ブラジル人(4人)、ペルー人(1人)	春、いちご	ひらがな(ま行)に親しみ、カード作りをする 日時、天気に関する語彙をふやす ”春”に関する絵本を読み、実際にレアリア”いちご”を注意深く見て、オノマトペや形容詞を増やす 紙をいちごの形にしたり、ペンやクレヨンで色をぬり、いちごカード作成し発表
22	平成25年2月27日 13:00~14:30	1,5時間	西尾市立平坂幼稚園	5人	ブラジル人(4人)、ベトナム人(1人)	ひらがな、数量表現、絵本、交通安全	50音表から身近な人や友だちの名前をみつけて、○をつける。 ひらがなで自分の名前を書く(横書き、縦書き) マグネットやおもちゃで数量に親しみ、授受表現にしたいむ ”しゅくだい”を提出し、本日分をもらう 安全に気をつけて、横断歩道をわたる
23	平成25年2月28日 13:00~14:30	1,5時間	福)せんねん村中野郷保育園	5人	ブラジル人(5名)	ひらがな、絵本	時計で開始時間、終了時間を理解し、指導者に伝える 50音表から家族や身近な物の名前をみつけて、○をつける。 ひらがなで自分の名前を書く(縦書き導入) 絵本よみかせ ”しゅくだい”を提出し、本日分をもらう
24	平成25年3月6日 13:00~14:30	1,5時間	西尾市立平坂幼稚園	5人	ブラジル人(4人)、ベトナム人(1人)	ひらがな、数量表現、絵本、交通安全	50音表から身近な人や友だちの名前をみつけて、○をつける。 ひらがなで自分の名前を書く(横書き、縦書き) マグネットやおもちゃで数量に親しみ、授受表現にしたいむ ”しゅくだい”を提出し、本日分をもらう 安全に気をつけて、横断歩道をわたる

25	平成25年3月7日 13:00～14:30	1,5時間	福)せんねん村中野郷保育園	5人	ブラジル人(5名)	ひらがな、数量表現、絵本	時計で開始時間、終了時間を理解し、指導者に伝える 50音表から家族や身近な物の名前をみつけて、○をつける。 ひらがなで自分の名前を書く(縦書き導入) 絵本よみきかせ ”しゅくだい”を提出し、本日分をもらう
26	平成25年3月9日 14:30～16:00	1,5時間	西尾市青年の家	10人	ブラジル人(4人)、ペルー人(1人)、ベトナム人(3人)、フィリピン人(2人)	健康と体	ひらがな(や行)に親しみ、カード作りをする 体の部位や、健康に関する語彙や表現をする 親子で健康に関するゲームに参加し、語彙や表現を何度もつかう
27	平成25年3月13日 13:00～14:00	1時間	西尾市立平坂幼稚園	5人	ブラジル人(4人)、ベトナム人(1人)	ひらがな、数量表現、絵本、交通安全	50音表から身近な人や友だちの名前をみつけて、○をつけ、書く。 ひらがなで自分の名前を書く(縦書き) マグネットやおもちゃで数量に親しみ、授受表現にしたしむ ”しゅくだい”を提出し、本日分をもらう 安全に気をつけて、横断歩道をわたる
28	平成25年3月14日 10:00～12:00	2時間	多文化共生教室きぼう	6人	ブラジル人(3人)、ベトナム人(3人)	絵本、交通安全、健康衛生	50音表でひらがなに親しみ、自分の名前を書く 休憩や活動後に手洗いやうがいをする 風邪やインフルエンザに関する語彙を導入 交通ルールを知る
29	平成25年3月15日 10:00～12:00	2時間	多文化共生教室きぼう	5人	ブラジル人(3人)、ベトナム人(2人)	ひらがな、数量導入、絵本、交通安全	50音表でひらがなに親しみ、自分の名前を書く 休憩や活動後に手洗いやうがいをする 風邪やインフルエンザに関する語彙を導入 交通ルールを知る
30	平成25年3月16日 14:30～16:00	1,5時間	西尾市青年の家	8人	ブラジル人(4人)、ペルー人(1人)、ベトナム人(3人)	学用品	ひらがな(ら行、わ、を、ん)に親しみ、カード作りをする 学用品の名前を知り、親子ゲームで親しみながら覚える ご褒美メダルをもらう

31	平成25年3月18日 10:00～12:00	2時間	多文化共生教室 きぼう	5人	ブラジル人(3人)、 ベトナム人(2人)	ひらがな、数量導入、絵本、交通安全	50音表でひらがなに親しみ、自分や友だち、家族の名前を書く 休憩や活動後に手洗いやうがいをする 交通ルールを知り、守る
----	---------------------------	-----	----------------	----	-------------------------	-------------------	---

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

とき:8月8日

場所:西尾市立鶴城小学校

取組テーマ:あいさつ、ひらがな、交通安全

添付写真:施設まわりを安全に歩き、横断歩道をわたる。



とき:8月18日

場所:西尾市役所

取組テーマ:多文化多言語な保護者への就学案内

添付写真:学用品についての説明を聞く。



とき:1月19日

場所:西尾市青年の家

取組テーマ:ひらがな、数量表現、オノマトペ

添付写真:マグネットをつかい、10までの数と

数量の操作に関する日本語表現に親しむ。



(10) 目標の達成状況・成果

日本語教室の設置・運営での目標:

学習で使う語彙や表現にふれ、習得する。

小学校の夏季休業期間を利用し、施設を親子で体験し就学への期待を高める。

親子で教室に参加し、学習の必要性について感じ、自主的家庭学習への姿勢を作る。

日本語教室の設置・運営での成果:

全31回実施することができた。

レアリアを多用し、親子で体験をととして日本語表現や語彙をふやす活動に参加する機会を提供でき、小学校の施設見学を通して就学への期待をたかめることができた。

保護者へ家庭学習の必要性について知ってもらうことができ、子どもは家庭で楽しみながら遊びの中に学習項目を取り入れ、自主的家庭学習の基礎を培うことができた。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施での目標:

外国人幼児の育つ社会的背景、幼児期の発達、アイデンティティ、言語習得、指導方法、教材の作り方などを学ぶ。

夏季開催予定の親子プレスクールに補助員として参加し、実習として教案作成や教材作成をする。

1人で少人数グループ(5人程度)を指導できるようにする。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施での成果:

専門家の講義を聞き、自ら考え、話し合う(ワークショップ)機会をもつことで、実践に備えることができた。

1月～3月の土曜日に開催した親子プレスクール後、反省と教材作成をおこなうことで、アイデアを交換したり、子どもの様子や指導方法などを省みる機会をもつことができた。

研修を受けた人は、全員が指導員か指導補助員として、親子プレスクールに積極的にかかわることができた。

日本語教育のための学習教材作成での目標:

就学前のレディネスを高める

学習に対して肯定的で意欲的態度を育てる

家庭学習の基礎を築き、保護者の教育力を引き出す

日本語教育のための学習教材作成での成果:

5歳児の知的発達を考慮し、日本語学習につながる項目を盛り込んだオリジナル教材の作成ができた。また、保護者の母語を併記することで、保護者は自信をもって子どもと一緒に自宅での日本語学習に取り組むことができるようになった。

(11) 改善点について

日本語教室の設置・運営面では、場所の確保について、もう少しの工夫が必要であった。曜日、時間帯などの都合で、市内公共施設や公立小学校などを転々としたので、何人かの利用者が市役所へ電話したり、直接窓口へ行ったという事例があった。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施面では、指導員候補の仕事やパートの都合で、一斉に集まれる時間を設定することが難しかった。指導員募集の段階で、「〇〇曜日に都合のつく方」という制限をもうける必要があったのかもしれない。

日本語教育のための学習教材作成面では、アイデアを具体化しパソコンで処理する時間が予想以上にかかった。教材作成や出版にかかわったことのある人からのアドバイスをもらっておくべきであった。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

プレスクールセミナー2012

(2) 目的・目標

日本語教室にかかわる指導員の募集

日本語教室にかかわる指導員のスキルアップ

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成 24 年 9 月 1 日 9:00~17:00	8 時間	西尾市 総合福祉 センター	29 人	日 本 人 (27 人)、ブ ラ ジ ル 人(2 人)	指導者養 成研修	指導員養成講座&ワークショップ * 愛知県の現状と取組 * 子どもの言語発達と人間形成 * 多文化社会の保育 * ワークショップ(教材研究)
2	平成 25 年 1 月 5 日 16:00~17:00	1 時間	西尾市 青年の家	1 人	日 本 人(1人)	反省と教 材作成	1月5日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討
3	平成 25 年 1 月 12 日 16:00~17:00	1 時間	西尾市 青年の家	3 人	日 本 人(3名)	反省と教 材作成	1月12日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討
4	平成 25 年 1 月 19 日 16:00~17:00	1 時間	西尾市 青年の家	4 人	日 本 人(4人)	反省と教 材作成	1月19日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討
5	平成 25 年 2 月 2 日 16:00~17:00	1 時間	西尾市 青年の家	3 人	日 本 人(3人)	反省と教 材作成	2月2日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討
6	平成 25 年 2 月 9 日 16:00~17:00	1 時間	西尾市 青年の家	3 人	日 本 人(3人)	反省と教 材作成	2月9日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討
7	平成 25 年 2 月 16 日 16:00~17:00	1 時間	西尾市 青年の家	4 人	日 本 人(4人)	反省と教 材作成	2月16日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討
8	平成 25 年 2 月 23 日 16:00~17:00	1 時間	西尾市 青年の家	4 人	日 本 人(4人)	反省と教 材作成	2月23日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討

9	平成 25 年 3 月 9 日 16:00～17:00	1 時間	西尾市 青年の家	3 人	日 本 人(3人)	反省と教 材作成	3 月 9 日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討
10	平成 25 年 3 月 16 日 16:00～17:00	1 時間	西尾市 青年の家	3 人	日 本 人(3人)	反省と教 材作成	3 月 16 日の親子プレスクールの振り返り 教材の検討

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

愛知県の現状と取組

稲波智子氏(愛知県多文化共生推進室)

子どもの言語発達と人間形成

～日本での育児に奮闘した経験を中心に～

劉郷英氏(福山市立大学)

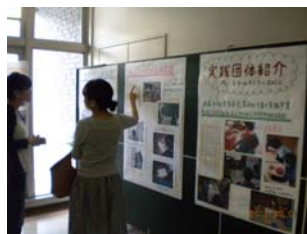
多文化社会の保育

～OECD保育白書 Starting Strong II を中心に～

星三和子氏(名古屋芸術大学)

ワークショップ

教材研究



(10) 目標の達成状況・成果

添付資料:プレスクールセミナー参加者アンケート

関心のたかい人に参加してもらうことができ、
実施団体の交流をはかることもできた。

オリジナル教材や絵本についての情報交換や、
指導方法についての検討の機会を提供できた。

指導員、指導員候補の人たちは、プレスクールや
年少者への日本語教育に関して知識を深める機会
となり、本事業へ参加する意義を確認でき、
モチベーションが高くなった。

福) せんねん村中野郷保育園、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
プレスクールセミナー2012 アンケート

参加者アンケート集計 (回収数25)

Q1. どういった目的で今回参加されましたか。

☐ 今後、プレスクール事業企画の予定があるため。・・・6人

☐ 今後、プレスクールに関わろうと思っているため。・・・3人

☐ 現在、プレスクールに関わっているため、知識を増やすため。・・・3人

☐ 外国人児童生徒・住民などに関わっていて、関心があったため。・・・16人

☐ その他()・・・0人

Q2. 内容について

どの講座・ワークショップ・展示が印象に残りましたか。(複数回答可)

☐ 稲波智子氏、愛知県多文化共生推進室「愛知県の現状と取組」・・・7人

☐ 劉郷英氏、福山市立大学「子どもの言語発達と人間形成」・・・21人

☐ 星三和子氏、名古屋芸術大学「多文化社会の保育」・・・14人

☐ ワークショップ・・・17人

☐ 実践報告団体の発表・・・4人

☐ 教材、関連書籍展示・・・8人

セミナーの内容について、感想、要望など、ご自由にお書きください。

● 活動報告を口頭で聞きたかった。

● いろいろな立場の方の話がきけて、よかった。

● 劉先生の話しのように、実践をもとにした心に響くお話しや、ワークショップのように情報・アイデア交換したり、明日から使えるような教材を知ったりするのがとても有益であった。

● 劉先生のお話しを初めて聞きました。ぜひ、多くの人に聞いてほしいと思った。

● ワークショップは、もう少しわかりやすく説明があるとよかった。

● ワークショップが楽しかった。自分では思いつかないアイデアがもたらえた。

● 3歳までの母語の大切さを学びました。本の読み聞かせの大切さもわかった。

● グループで知識を出し合っただけで満足することはなかった。

● 劉先生の話しは、経験が入っているのがわかりやすい。DECT についての内容が勉強になった。

● 今回の質疑や交流の中で、新しい知識や考え方をしることができ、本当にうれしく、まだ刺激にもなりました。劉先生のお話しでは、「ことば」の大切さを改めて感じられました。毎週のサポートだけでなく、そのさらに前にある「心」のサポートのために、できることを少しでもやっていきたいと思いました。

● 様々な教材を拝見できて、とても参考になりました。自分の発展に生かしていきたいと思いました。

など。

Q3. 会場について

- ☐ ちょうど良い・・・20人
☐ 他施設が良い(例えば:尾張の人にも行きやすい場所。名古屋市内。市役所など、もっとわかりやすい場所。)・・・4人
☐ その他(内容に興味があれば、どこでも行く)・・・1人

自由記述欄

[



]

(11) 改善点について

指導に直接関係するワークショップ部分、指導方法の時間が少なかった。

専門家による理論や実践団体の発表を聞いたり、ワークショップに参加することはできるが、それだけでは研修翌日からの実践には不十分である。市販教材や、自作教材、大切に買い集めてきた絵本などを持ち寄って下さった方々を囲んでの懇談や、指導アイデアなどを話し合う時間を多くするべきであった。

本事業にかかわる指導員は、のちに、各土曜日の親子プレススクール後に反省や教材作成をする時間をもうけることができたが、プレススクールセミナーのみに参加した人には不十分なままであったのではと推測する。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

ワークブック“(こどもの名前)のべんきょう” no.1～10

(2) 対象

5歳児の子どもと保護者のうち、家庭で日本語をつかわない人

(3) 目的・目標

就学前のレディネスを高める

日本語学習に対して肯定的で意欲的態度を育てる

家庭学習の基礎を築き、保護者の母語を使うことで彼らの教育力を引き出す

(4) 構成

NO. 1 表紙、使い方説明、内容18ページ(運筆、自分の名前、ひらがな あ行、工作)

NO. 2 表紙、内容18ページ(ひらがな か行、工作、色塗り、数量の表現)

NO. 3 表紙、内容15ページ(ひらがな、さ行、工作、色塗り、数量の表現)

NO. 4 表紙、内容15ページ(ひらがな、た行、工作、色塗り、数量の表現)

NO. 5 表紙、内容15ページ(ひらがな、な行、工作、色塗り、数量の表現)

NO. 6 表紙、内容16ページ(ひらがな、は行、工作、色塗り、数量の表現)

NO. 7 表紙、内容17ページ(ひらがな、ま行、工作、色塗り、数量の表現)

NO. 8 表紙、内容13ページ(ひらがな、や行、工作、色塗り、数量の表現)

NO. 9 表紙、内容18ページ(ひらがな、ら行、工作、色塗り、数量の表現)

NO. 10 表紙、内容17ページ(ひらがな、わ・を・ん、工作、色塗り、数量の表現)

(5) 使い方

日本語教室や家庭で、時間と日時を区切って、指導者や保護者といっしょに取り組む。
その後、日本語指導者とともに答え合わせをしたり、自然な発音や表現を多く聞いたり、
話す機会をつくる。

(6) 具体的な活用例

ワークブックNO. 1、10ページ（ひらがな“あ”“い”“う”のカードづくり）

↓描いてあるイラストについて話しあう。

↓ハサミやのり、色鉛筆などの文具を紹介し、使い方を見せる。

↓ひらがなのカードを作る

↓カードを糊付けするか、ラミネート加工し、見せ合ったり、カード遊びをする。

↓“あ、い、う”で始まる生活用品や、友だちの名前、文具などをみつけて集める。

↓“あ、い、う”で始まるものを写真でとったり、絵をかくて発表する。

掲示スペース(家庭なら冷蔵庫やコルクボード)に貼って、人に伝える。

(7) 成果物の添付

別添

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

地域に住む外国人幼児およびその保護者に対し、就学前の段階で学習につながる日本語習得の機会を提供する。また、日本語指導者や日本語教室の少ない地域においても、外国人保護者がその母語をつかいながら、子どもと一緒に日本語学習ができるように学習教材(ワークブック)を作成する。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

日本語教室の設置・運営、日本語教育を行う人材の養成・研修の実施、日本語教育のため学習教材の作成いずれも、大きく欠けることなく目標を達成することができた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案では、生活にかかわる事項が網羅されているのでピックアップして、実施までの流れを確認しながらすすめていくことができた。

はじめて親子プレスクールにかかわった指導員も、カリキュラム案の指導項目一覧などを参照しながら、漏れなく計画をたてることができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地域の日本語教室、小学校、幼稚園とのかかわりの中で、多様な実施場所を確保することができた。地域の教育関係者のあいだでも、年少者とその家庭への日本語教育への関心がたかまっていることを実感した。

市役所をはじめとする、公共施設は外国人住民にとってもなじみがあり、集まりやすい場所にあることが多い。したがって、今回のように100名の参加者が安心して本事業に参加することができたのであろう。

(5) 改善点、今後の課題について

今回、親子プレスクールや研修に参加した人からは、大変好評をいただいた。

ただ、外国人幼児と保護者を対象とした日本語教室の設置は、専門家のアドバイスも必要であるし、子どもの突発的な行動や成長過程にある存在であるために起こりうるアクシデントにも対応するために、通常の日本語教室よりも多くの指導者や補助者が必要である。また、子どもの認知発達の面からすると、学齢期の児童と比べると机上で学べることが大変少ないという特徴がある。就学前の子どもを対象とした場合、親子での活動やゲーム、工作(できれば料理)などを多く取り入れ、徹底的にレアリアと体験から学ぶという趣旨で教室を開催するべきであろうと考える。

また、日本で子育てをする外国人保護者が「母語を十分に活用して子どもと日本語を学ぶ」という意識をもってもらうための啓発が必要であろうと考えている。社会的なプレッシャーから母語の使用を断念するケースをよく見た。母語を封印するということは、母文化や保護者のルーツを封印するということにつながる可能性があり、子どもはそういった心理的変化を見逃さず、保護者を否定したり、ルーツのある文化へ背を向けるということも考えられる。したがって、日本語習得をスムーズにするためにも、保護者の母文化や母語を十分に活用できる(母語を使ってもよいという)環境作りが大切であろうと感じる。